

1. 題材設定の理由

来年度から6年生になる5年生に最高学年としての活動に目を向けさせ、それにあこがれる気持ちをもたせたい。6年生の活動が「全校のみんなのために」を合言葉に進められていることに気づき、自分たちにも何かできないかと考えさせるきっかけとしたい。

また、6年生への感謝の気持ちをどのように伝えるか考える活動を通じて、全校を動かしていくための下地を身につけさせたい。

2. 指導のねらい

現在の6年生の活動の意味に気づき、憧れや感謝の気持ちをもつ中で、自分たちが来年度全校のために活動しようとする気持ちをもつことができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・ 昨年の6年生を送る会を思い出させ、自分たちが今年進めていく意欲をもたせておく。
本時	・ 6年生に感謝の気持ちを伝えることを確認し、どのように送る会を進めるか案を出し合うことができる。
事後	・ 具体的に会の内容を定める。役割分担ができるように、大きく4つに係を分ける。 ・ 係ごとに準備をする。実行委員を中心に連携を取り合う。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・ 6年生の良いところを見つけ、発表し合うことができる。	◎6年生が全校の仲間のために行ってきた活動を再認識する。 ・ 委員会 ・ クラブ ・ 普段の生活 ・ 行事 ・ 分団 ◎気づいた良い点を交流し合う。 ・ 6年生は自主的にあいさつ運動を毎日行っていた。 ・ 委員会のときに先頭に立ってぼくたちを引っ張ってくれた。	・ 6年生の良い点に焦点をあててできるだけ多く出させる。 ・ 観点別に考えさせるとより細かい姿を出すことができる。	ノート①
課題：今まで全校のためにがんばってくれた6年生に、どんなお礼ができるか考えよう。				
中心の活動	・ 6年生にどんな気持ちを伝えるのか一人一人が考え、感謝の気持ちの具体的な表し方を話し合うことができる。	◎6年生にどんな気持ちを伝えたいか交流する。 ・ 椅子並べなど縁の下の力持ちとして活躍してくれてありがとう。 ・ なかよしグループをまとめてくれたから楽しかった。 ・ ぼくも今年の6年生のようになりたい。 ◎6年生を送る会のスローガンを考える。 ①全校の児童が覚えやすいように短くわかりやすい言葉。 ②たくさん意見を出し合い、多くの願いを取り入れる。 ◎6年生に感謝の気持ちを伝えるためにどんなことをしたらよいか考える。飾りつけ・出し物・引き継ぎ式・縦割り班遊び ・ 垂れ幕を使って、感謝の気持ちを書いてはどうか。 ・ 最後に6年生を中心にした遊びがしたい。 ・ 劇で感謝の気持ちを表現してはどうか。	・ 何のために送る会をするのか、子どもの意見を中心にまとめていくようにする。 ・ 全員が覚えられるスローガンを考える。 ・ 決まったものをノートに書く。 ・ 昨年の方法をヒントとして与える。(昨年度の垂れ幕やプログラムを提示する) ・ 感謝の気持ちを伝えるのだということを常に確認させる。	ノート② ノート③ ノート④
まとめ	・ スローガンのもつ意味を確認する。	◎決定したスローガンの下に、今後の活動の見通しをもつことができる。 内容決定→役割分担→係別活動→リハーサル→本番	・ 見通し表を用意しておき、時間を有効に使うことを指示する。	
事後	・ スローガンを元に内容決定することができる。	◎飾りつけ、司会、出し物、引き継ぎ式、縦割り班遊びなど6年生を送る会で行う活動を決める。	・ 実行委員会にて内容の調整を行う。	
	・ 係別活動で一人一人が責任をもって取り組むことができる。	◎4年生以下から意見を取り入れる。(6年生の良さなど) ◎自分の係の仕事を最後まで責任をもってやり遂げる。	・ 一人一人の仕事の進み具合を確認する。	
	・ リハーサルや本番で感謝の気持ちをそれぞれの役割の中で表すことができる。	◎当日、自分がどのように動くのか確認する。 ◎互いに、よりよい伝え方をアドバイスし合う。 ◎互いのがんばりを認め合う。	・ リハーサルは緊張感をもって行うように指導する。	

《説話例》 「縁の下の力持ちとして活躍した6年生」

ある昼休み、先生が配膳室をのぞいてみると、6年生の男の子が給食のワゴンの片付けをしています。先生はその子に話しかけました。「どうして手伝っているの。」その子は答えました。「暇だったし、おばさんが大変そうにしていたからだよ。」にこにこ恥ずかしそうにする姿が、先生にはまぶしかっ

た。給食のおばさんのためのお手伝いですが、たった1人の人の笑顔が見たいからと働ける6年生を先生は誇りに思います。6年生を送る会を通して、だれかのためにがんばれる子にみんなが成長してほしいと願っています。